



今年も厳しい但馬の冬がやってきて、雪が降り積もりました。皆さんは雪かきをされましたか？

緩和ケア病棟の庭園にもたくさん雪が積もり、病院の軒先には大きなつららができました。大人になってから、つららをまじまじと見るのがなかったですが、こんな身近で自然の雄大さを感じられるのも、但馬の冬ならではですね。まだまだ寒い日が続きますが、皆さまご自愛ください。



クリスマス会を行いました

12月クリスマス会を行いました。患者さんのお部屋にサンタやトナカイに変身した病棟スタッフが、松ぼっくりのかわいらしいツリーを配ってまわりました。

10月に一時的に緩和されていた面会制限でしたが、コロナウイルス感染者の増大に伴い、再度11月からは面会制限再開となりました。患者さん、ご家族には寂しい入院生活となってしまいましたが、季節の行事でひとときだけでも楽しい時間を過ごしていただけたら嬉しいです。



庭園にもたくさん雪が積もりました！

冬になり、庭園の花がなくなってしまう、寂しく感じていましたが、今年も雪はたくさん積もりました！

寒い中でしたが、作った雪だるまを車いすで散歩中の患者さんに見ていただいたり、病棟スタッフが取った大きなつららを部屋で触ってもらったり。病棟内で少しでも季節を感じてもらえたら嬉しいです。

緩和ケア＝暗い？

緩和ケア病棟に入院されるみなさんの中で、緩和ケアは「暗い」というイメージがあり、残念だなあとすることがあります。緩和ケアって、みなさんの日常生活と程遠い場所にあるものなののでしょうか？

今や日本人の2人に1人はがんにかかるといわれています。もしくは、がんにかからなくとも、自分がいつ死ぬのか、それは誰にもわからないことです。

緩和ケア病棟では、患者さんと最期の時を一緒に過ごす機会があります。タイミングよく最期の時に一緒に過ごせるご家族もあれば、残念ながらそうではない場合もあります。その時に後悔されるご家族もおられますが、そんな時は必ず、このようにお声をかけさせていただいています。「最期の時を大事に思う気持ちもわかりますが、これまでどのように関わることができたのかも大切ではないでしょうか」と。もちろん最期の時に一緒に過ごせなかったという後悔に対するなぐさめにはならないかもしれません。

最期の時に後悔しないためには、日々の生活で大切な人とどう関わっているかが大事なのではないでしょうか。とはいえ、なかなか日常生活の中で、自分の命のリミットを感じながら過ごしている方は少ないかと思えます。しかし、告知を受けている患者さんであっても、健康に過ごしている人でも、残された時間は誰にもわかりませんよね。今この時を“どう生きるか”がとても大切なだと思います。そう考えると、緩和ケアって暗いものではなく、**人生をどう生きたいか明るく考えるための場所**なのではないでしょうか？

みなさんにも、八鹿病院に緩和ケア病棟ってあったなあとか、もし、身近な人で緩和ケアが必要そうな人があった場合に、思い出してもらえると嬉しいなと思います。

編集後記

桃の節句の季節となりました。春の訪れを感じますね。コロナやインフルエンザなどが流行り、皆さまも不安な日々が続くと思いますが、どうぞご自愛ください。

(編集委員)

